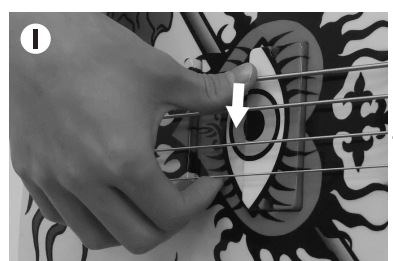


注意点1  **右手**

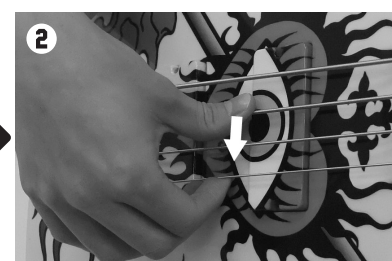
**滑らかに上昇&下降する
スウィープ奏法にトライせよ!**

スウィープ奏法は、コードを一気に上昇&下降(または下降&上昇)してコード・トーンを鳴らすテクニックだ。この合理的でおいしいテクニカルな技をギタリストだけのものにしておくのはもったいない! ベースでも第5の指となる親指を使用することで、スウィープが十分に弾けるのだ。実際には、低音弦から高音弦(4弦→2弦)への上昇ピッキングを親指、高音弦から低音弦(1弦→3弦)への下降ピッキングを人差指で行なう(写真①~⑦)。この動きは、親指と人差指のレイキングを組み合わせたものだと考えてもよいだろう。

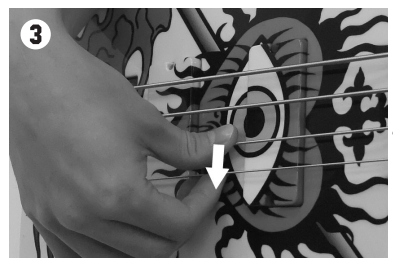
メイン・フレーズ1小節目1&2拍目ではEmをスウィープで弾くが、4弦12フレットがルート音、3弦14フレットが5度、2弦14フレットがオクターブ上のルート音、1弦12フレットが3度になる。2・3弦14フレットは、中指のセーハで押弦しよう。右手のピッキングは4→2弦までが親指で、1弦12フレットが人差指、1弦16フレットが中指となり、そのあとの1弦12フレット、2弦14フレット、3弦14フレットが人差指となる。つまり、Emの8音のうち、3音を親指、2音を2フィンガー、3音を人差指でピッキングすることになるのだ。スウィープ奏法では、左手の押弦と右手のピッキングのタイミングが正確にリンクすること【註】が最重要だ。また、アルペジオとは異なり、コード・トーンを伸ばしながら繋げず、1音1音切りながら演奏するので、次の音に移った時には前の音をしっかりミュートするように心掛けよう。高度なテクニックなので、焦らずじっくり練習すべし!



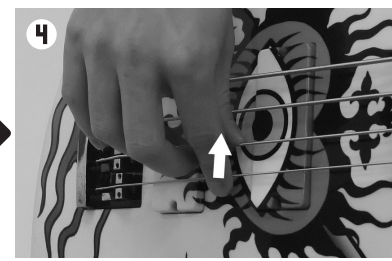
① 上昇は、まず親指で4弦をピッキング。



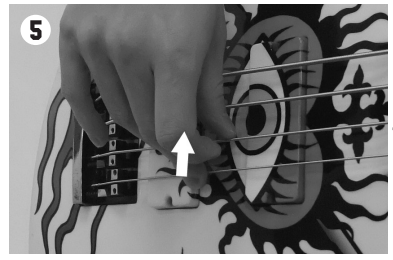
② その勢いのまま3弦を弾き……



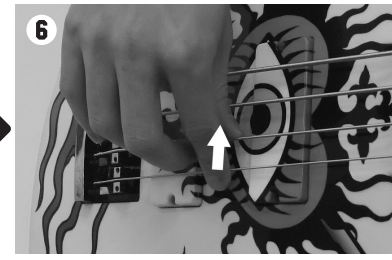
③ 続いて2弦を鳴らす。



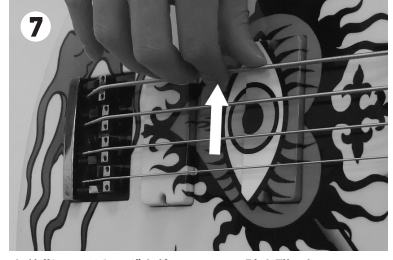
④ 人差指に切り替えて1弦を弾く。



⑤ 下降は、中指で1弦を弾いたのち……



⑥ 1弦を再び人差指でピッキングする。



⑦ 人差指のレイキングを使って、2&3弦を弾こう。

注意点2  **右手**

**右手5本指の音質を
的確に揃えよう!**

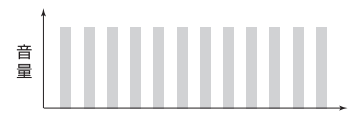
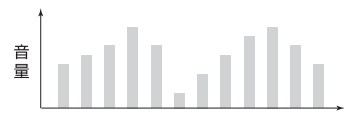
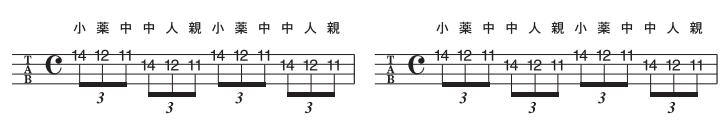
松フレーズは、5フィンガーとレイキングを組み合わせて演奏する。2拍で1セット=6音フレーズが基本パターンとなり、右手は小指→薬指→中指→中指(レイキング)→人差指→親指という順番になる。P.79の注意点2で解説した親指でのピッキングとなるため、親指の位置を下側にズラそう。このような親指を加えたマルチ・フィンガー・ピッキングは、音にバラつきが出たり、リズムが乱れやすかったりするので、均等な力でピッキングするように心掛けてみてほしい(図1)。また立って演奏する時には、座った状態での演奏に比べて右手の位置の調節が難しくなるので注意しよう。

図1 均一なピッキング

・松フレーズ1小節目

✕ 音にバラつきがある

○ 音量が一定



指ごとに音量差が付き過ぎないように気をつけよう。

【正確にリンクすること】どんなに指を速く動かすことができても、右手と左手のタイミングがズレていたら、ミュート音かノイズしか出ない。遅いテンポで練習して、自分のプレイの正確性を再確認すべし!